

整った樹形の紅紋ベリロに魅せられて一気に描き終えた

このリンゴ樹「紅紋」は山の中腹にある。石垣で積まれた果樹園の右端にあった。1段高いところからの樹形はとても心地いいのだ。2011年から何度も見続けた老樹である。老樹の証と言うべき幹はウロとなって存在感を放っていた。老樹は手入れが行き届いているせいか、伸び伸びとゆったりとした樹形であった。2021年3月21日、雪が残る時期に下見をした次の日から、上から見下ろす樹形が良くわかる所を決めてから、その樹と向き合い描き始めた。作品の形は正方形×2の長方形とした。紅紋りは画面に程よく収まった。制作中は周りでは農園主のパチンパチンと小気味よい選定する音が聞こえてきた。楽しい時間であった。ヒコバエも大切に育てられていた。この樹の魅力はウロと樹形が魅力的であった。丹念に枝を描き入れ芽吹き表情を4月の末に8回の19時間35分で描き終えることができた。

収穫期は10月の上旬から中旬で、形は丸くて切断面の果肉は真っ白である。毎年時期になると紅紋りを口にする、味はさっぱりとした味である。



2022年

日本一長寿のりんごの樹（紅紋）

36.5cm × 73.0cm

ウィキペディア フリー百科事典によると昭和 35（1960）年に青森県つがる市に生息する青森県指定天然記念物となった「柏村のりんごの樹」が明治 11（1878）年を「日本最古のりんごの樹」は、「紅紋」約 6m、約 5m の 2 本と「祝」約 4m の 3 本であると記載されている。リンゴの木は栽培された頃は剪定する技術もなかった時代は 6m に成長する。育ったリンゴの周りに足場を組み収穫した栽培の歴史がある。

ここの果樹園の紅紋りは明治 10（1876）年に植えられ 1 年古い「日本最古のりんごの樹」なのである。

紅紋（英語名：Fameuse・ファミュース）原産地は未詳とされるが、フランスリンゴの実生の可能性が高いといわれている。日本への導入は明治 4（1871）年のことで、開拓使がアメリカ合衆国とフランスから導入した。津軽地方では「タマカン」とも呼ばれ、かつては広く栽培されていた。「タマカン」は「玉簪（たまかんざし）」を簡略化した言葉であり、この品種を初めて見た人々が「玉簪の珊瑚玉のように赤く美しい」と感じたことから呼ばれるようになったという。

ちなみにカナダ・オンタリオ州でジョン・マッキントッシュによって発見され、明治 3（1870）年に品種（Fameuse）として発表された。

旭（あさひ）（英語名：Macintosh Red・マクイントッシュ・レット）は、紅紋の実生と推定されている。

浜益に明治 10 年(1877)の初生り国光が生り続けている

2011 年から何度もここの果樹園を訪ねてきた。ここで最初に取り組む作品はリンゴの老樹「国光」の実を付けている下絵である。

北海道で民間の初生りしたのは「緋之衣」と「国光」であるからだ。緋之衣は余市の古木を描くことができていた。「国光」は長年探し求めやっとめぐりあった果樹だったのだ。

国光の老樹は幹廻り 1m 65cm に近い所から枝が大地から垂直に 1m 50cm が 1 本と斜めになった幹からもう 1 本斜めに枝がある。この 2 本の枝で樹形が形成され生産され続けられてきたのだ。

ここの果樹園の歴史は、初代は鯨漁師の網元であった。北海道開拓使が明治 10 年無料配布された果樹の木を、網元は 100 人ほどのヤン衆を使い山の中腹を切り開き、その時出てきた石材で石垣を積み段々畑を造った。近くには地下水が湧き小さな沢もある。この地は開拓の歴史と長寿の老樹が両方が共存しているのだ。北海道文化・産業遺産ともいえるのではないかな。

この樹の課題は、たわわに実をつけた果樹の制作であった。2020 年再びたずね、10 月 3 日、午前中からこの樹と向き合い描き始めた。ここの果樹園への距離は私の家から 52.5 km であった。



2022 年 日本一長寿のりんごの樹(国光) 36.5 cm × 60.0 cm

この間小雨が降って何度も何度も中断し、下まで降りては避難。その間、気になっていた「果樹園の山のお店(小さな鯨番屋作り)」を建てた当時の状態が残っている裏側を雨宿りを兼ねたマキ小屋から、時間を惜しんでスケッチを始めたのだ。

この時期は収穫時期でもあり。周りではキャタピラ付きの小型運搬車がドドドドオと音が鳴り響かせ大活躍であった。カケス、アオゲラがいた。クマゲラもいますと農園主。エゾジカが電気牧柵の付近に現れた。

10 月 27 日には初雪が降った。1 回に 3 時間ほどで簡単には描かせてもらえず、12 回も通い続けた。31 日は 5 時間も粘った。来なかった日の 11 月 3 日には初霜が降りたとか。5 日、朝 9 時から午後 1 時まで。13 回 42 時間で終止符が打てた。へたへたになるまでよく頑張ったと自分で自分を褒めたい。

国光(英語名: Ralls janet・ロールス・ジャネット)は明治 4(1871)年に開拓使によって導入された品種で、導入当初は「雪の下」「晩成子」。北海道では、「49 号」。地区によって様々な名称で呼ばれていたが、明治 33(1900)年に「国光」に統一された。この名は前年の大正天皇の御成婚の慶事にあやかっただけのものであると言われている。